

5 口腔周囲の不随意運動と咬合高径の低下に対して 治療用義歯を適用した1症例

○松本 崇臣¹, 野村 章子^{2, 3}, 丸山 満², 伊藤 圭一²

(¹歯科技工士学科研究生, ²歯科技工士学科, ³附属歯科診療所)

【症例の概要】

患者は50歳代の女性で、下顎義歯の不適合と粘膜の疼痛のため来院した。

脳性麻痺による口腔周囲の不随意運動と下顎位の不安定さ、咬合高径の低下によるオーバークロージャーの所見が認められた。歯牙の欠損部位は6+37, 7+24-7であり、残存歯7|456は全部鑄造冠が装着され、|3は残根状態であった。

【治療内容と経過】

下顎義歯の製作に際して、不随意運動に由来する義歯の浮き上がりに対応するため、磁性アタッチメントを|3の義歯床内へ取り付け付けた。また顎位の不安定さと、オーバークロージャーを改善するため、咬合挙上すると共に臼歯部をスプリント様のフラットテーブルに形成した。

治療後11週目で、これらの問題に改善傾向が認められ

たので、臼歯部に有咬頭歯を排列して、明確な咬合位が得られるかを観察した。

次に、上顎義歯の新製に伴い、咬合平面の修正が必要となったため、咬合調整に工夫を行いつつ、24週目には不随意運動に配慮した無咬頭歯を再排列し下顎義歯を完成した。

【まとめ】

歯科技工士がチェアサイドで診療内容を把握し、歯科医師と密に連携しながら、治療用義歯を用いて段階的に治療を進めた結果、義歯の不適合と粘膜の疼痛を改善できた。さらに顎位の安定化と顔貌の回復、咬合平面の改善を図ることが可能であった。

【文献】

- 1) 本田岳史ほか. 診断用義歯を適用した咬合位不安定症例について. 明倫歯誌8 (1): 94, 2005

6 少数歯残存症例に応用した Silicone-Model-System

○伊藤 圭一¹, 野村 章子¹, 松本 崇臣², 丸山 満¹

(¹歯科技工士学科, ²歯科技工士学科研究生)

【はじめに】

近年演者らは、総義歯治療における患者の負担軽減と治療手順の簡略化を目的に、概形印象を行わずに使用義歯の複印象から研究用模型と個人トレーを製作する方法 (Silicone-Model-System) を歯科訪問診療を含めた臨床に導入し、良好な結果を得ている。今回は、無歯顎症例に限らず、少数歯残存症例にも本法を応用したので技工手順を中心に報告した。

【方法】

1. 使用材料

模型材は、技工用重縮合型シリコン印象材タイタニウム (セルマック社) を使用した。

2. シリコンを用いた研究用模型の製作

1) 残存歯部を模型上に再現するため、局部用の既製トレーとアルジネート印象材で、残存歯部および義歯の取り込み印象を行った。2) この印象内面にシリコンを圧接し、残存歯部と使用義歯粘膜面部の複印象を行った。3) 義歯の研磨面と人工歯部の形態はシリコンコアを採得して記録した。

3. 個人トレーの製作

1) 残存歯部にパラフィンワックスでスペーサーを付与した。2) 通常の粉液比よりも液量約20%を増量した常温重合レジン (オストロンII, ジーシー) をコアの人工歯部に慎重に圧接した。3) 模型本体をコアに押しつけ、レジンの圧接操作を行った。その際、模型本体にコアが適切な位置に収まるまで、バリとなった余剰レジンを取り除いた。4) 辺縁部や粘膜面部の研磨を行い、必要に応じてハンドルを取り付け完成した。

【まとめ】

- 1) 無歯顎症例に限らず少数歯残存症例においても、使用義歯の外形を概ね再現した個人トレーを用いることにより、確実な印象採得が可能であった。
- 2) 特別な器具、装置が不要なため、チェアサイドや訪問診療先でも、30分以内で作業が完了した。

【参考文献】

- 1) 伊藤圭一, 野村章子, 山田一穂: silicone model systemによるスタディーモデルと個人トレーの製作, 歯科技工, 34 (4): 488~497, 2006